



# 発達障害者支援関係報告会

## 発達障害特性を背景にもつ 不適応行動への支援

札幌市

実施機関：社会福祉法人 はるにれの里

発達支援室なっつ 俵谷 知実

# 事業名

## 二次障害の予防と介入

～Community Reinforcement and Family Trainingを応用適用した支援者向け研修と、支援者チームの編成の効果の測定～

# 事業の実施内容

I 平成27年10月23日（金）13:00-17:45

発達障がい特性を背景にもつ、成人期の不適応行動  
とその支援一事例を通したワークショップー

II 平成27年11月20日（金）13:00-17:45

発達障がい特性を背景にもつ、思春期の不適応行動  
とその支援一事例を通したワークショップー

III 研修終了後に希望のあった機関へコンサル  
テーションの実施

# 本事業に到った過程①

- 社会的ひきこもりや家庭内暴力、犯罪行為といった不適応行動の背景に、自閉症スペクトラム特性（以下、ASD特性）の存在が疑われるケースがある
  - それらのケースでは、本人が支援を受けることを拒否をすることが多い
  - 支援を拒否する本人へ介入するCRAFTが有効と考えられる（齊藤，2010）

# Community Reinforcement and Family Training (CRAFT)

(Meyers et al., 1996; スミス・メイヤーズ, 2012)

- アルコール依存本人 (IP) が受療しないときに、家族など (CSO) を介してIPを治療につなげるプログラム。
- CSOを含めた環境 (Community) が変わることによって、結果的にIPが変わる。
- 物質依存への臨床試験で治療効果が広く確認、世界のスタンダードとなっている。現在ではホームレス支援や社会的ひきこもりなどへ、幅広く応用。

## 従来の考え方

飲酒＝個人の問題

## CRAFTの考え方

飲酒＝環境刺激とそれへの反応で説明

# 本事業に到った過程③

## ○ 昨年度までの事業

平成25年度



- ・ ASD特性を背景にもつ社会的ひきこもりおよび犯罪行動へのCRAFT（Community Reinforcement and Family Training）を参考にした介入支援と効果測定（2例のパイロットスタディ）

- ・ 架空事例をもとに、異業種間でケース発見以降の動き方のシュミレーションや課題整理

平成26年度

- ・ H25年度に介入支援を行った2事例の効果測定

- ・ 家族内に複数人介入が必要な人がいるなど、より支援困難な事例について、異業種間で対応方法の検討

# 本事業に到った過程④

## ○ 札幌市の取り組み

発達障害者支援開発事業  
企画・推進委員会

事業の評価

課題整理

次年度の取り組み



# 本事業に到った過程⑤

## ○ 昨年度までの事業結果

本人支援までの3STEPをチェック

- ・細やかな家族支援を
- ・複数の機関による、アセスメントと記録と連携を

本人に行動の問題あり！ 本人支援拒否！

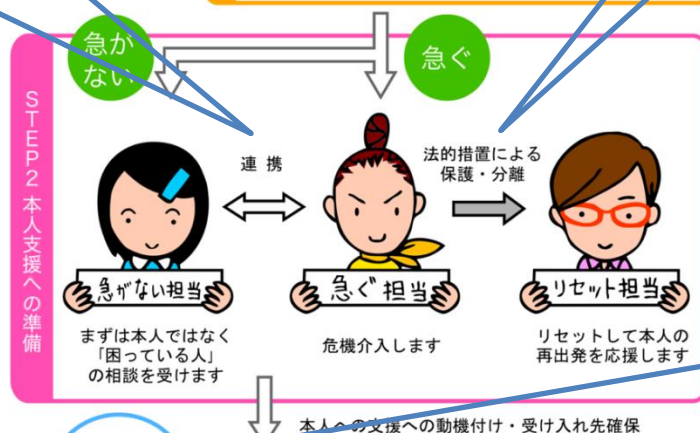
支援者のセルフチェック 本人を、一人の人として見ていますか？  
診断や障害の有無に関わらず、人としてあたり前の尊厳、義務（法律、条例）、エチケットという枠組みが互いに守られるべきなのは共通です。

支援者のセルフチェック 学び方や感じ方の違いを想像できますか？  
義務やエチケットを守るべきなのはどの人にも共通ですが、その学び方や感じ方が、多数派とは異なる人たちもいます。

支援者のセルフチェック 自分の立ち位置は明確ですか？  
自分がどの根拠で、誰の支援を、いつまでするのか自覚しましょう。自分の職場に付いて対応困難なことは他の支援者と協力しましょう。

- ・機動力のある専門家コンサルテーションチームを

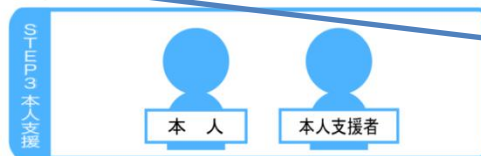
- ・支援者養成とネットワークを



- ・医療観察法をモデルとした一貫した支援を
- ・医療のできることを薬物治療反応性のみではなく、治療教育機関や環境調整も広義に捉えよう

(山本, 2014)

本人ニーズによる、本人への支援





# 本事業に到った過程⑥

## ○ 昨年度までの事業結果

- パイロットスタディの評価
  - ✓ 家族の自尊感情の向上
  - ✓ 家族の心の健康度が高くなった

→ プログラムを実施する支援者養成

→ コンサルテーションチームによるコンサルテーションの実施

# 本事業に到った背景

## ○ 札幌市の取り組み

- ・職員の入れ替わりが多い
- ・異業種と顔を合わせていく必要がある。

札幌市自立  
支援協議会

発達障害者支援開  
発事業企画・推進  
委員会

研修体系の整備

# 事業の目的

- ASD特性を背景にもつ不適応行動へ対応することができる専門家を60人養成する
- 研修会を受講した専門家は、CRAFTのノウハウを学ぶことに加え、グループワークを通して専門家間で縦の連携（ライフステージ）と横の連携（異業種）をとることができるようになる
- 研修受講後、希望者にコンサルテーションによるフォローアップを行い、実際のクライアントの変化を実測することで、その効果が見えるようになる

# 事業の方法①

## I 発達障がい特性を背景にもつ、成人期の不適応行動とその支援—事例を通したワークショップ—

### 【日時】

平成27年10月23日（金）13:00-17:45

### 【効果測定】

研修前と研修後（3カ月）に『機関間協働スキル自己効力感』（副田，2014）を参考にした質問紙を実施

### 【回収率】

研修前 100%

研修後 現在回収中

# 研修内容

- 全体の流れの説明
- 事例説明 「未診断、社会的ひきこもり、家庭内暴力、精神科症状も疑われる事例」
- 個人作業（シート1）
- グループワーク（シート2） 異業種によるグループ構成
- 地域支援における役割分担
- 事例説明
- 個人作業（シート2）
- グループワーク（シート2）
- ミニレクチャー『医療観察法の処遇からヒントを得る』  
講師 札幌学院大学人文学部教授 望月和代様
- ミニレクチャー『精神科医療からヒントを得る』  
講師 五稜会病院医療相談室主任・札幌市自立支援協議会運営委員 森祥子様
- ミニレクチャー『地域精神科リハビリテーションからヒントを得る』  
講師 ほっとステーション主任精神保健福祉士 佐々木歩様
- 個人作業（シート3）
- グループワーク（シート3）
- ファシリテーターからコメント

# 事業の方法②

## Ⅱ 発達障がい特性を背景にもつ、思春期の不適応行動とその支援—事例を通したワークショップ—

### 【日時】

平成27年11月20日（金） 13:00-17:45

### 【効果測定】

研修前と研修後（3カ月）に『機関間協働スキル自己効力感』（副田ら2014）を参考にした質問紙を実施

### 【回収率】

研修前 100%

研修後 これから発送、回収へ

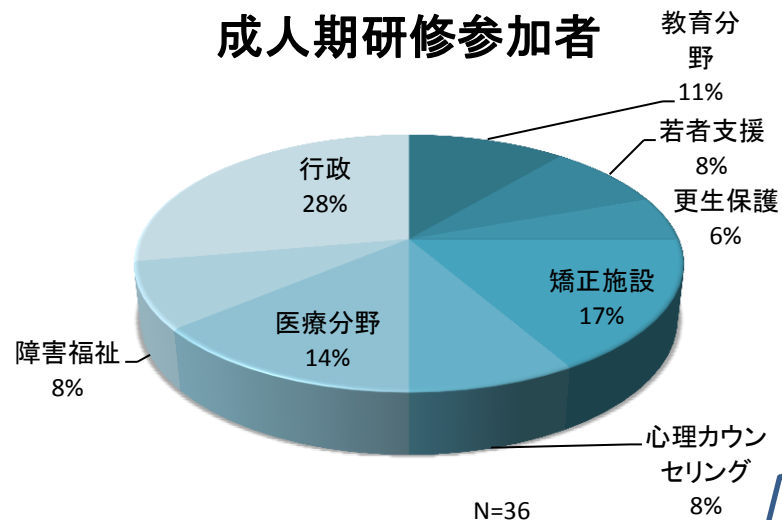
# 研修内容

- 全体の流れの説明（札幌市自閉症・発達障害支援センター 山本 彩）
- 事例説明 「未診断、家庭内暴力があった事例」
- 個人作業（シート1）
- グループワーク（シート2） 異業種によるグループ構成
- ミニレクチャー『少年ケースの流れと少年サポートセンターの役割』  
（講師 北海道警察本部生活安全部少年課被害少年支援・育成係長 塩見卓也様）
- ミニレクチャー『少年事件における見立てと少年鑑別所の役割』  
（講師 札幌少年鑑別所統括専門官（考査担当）二ノ宮 勇氣様）
- 事例説明
- 個人作業（シート2）
- グループワーク（シート2）
- ミニレクチャー『ひきこもり支援の実際と若者支援総合センターの役割』  
（講師 札幌市若者支援総合センター館長 松田考様）
- ミニレクチャー『様々な分野の支援制度と利用の実際』  
（講師 札幌市自立支援協議会相談支援部会部会長/相談室こころていね 杉田誠様）
- 地域支援における役割分担
- 個人作業（シート3）
- グループワーク（シート3）
- ファシリテーターコメント・一人一単語

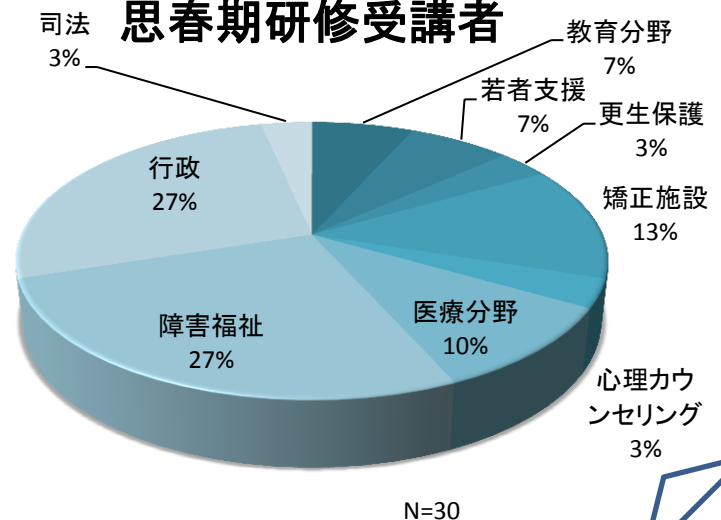


# 研修の受講者

## 成人期研修参加者



## 思春期研修受講者



# 事業の方法③

## Ⅲ コンサルテーションチームによるコンサルテーションの実施

対象者：研修会受講後、コンサルテーションを希望した機関

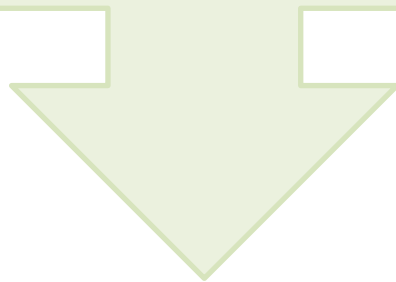
効果測定：コンサルタントとコンサルティとで標的行動を同定、標的行動の変容を一緒に測定

# コンサルテーションの実施

矯正施設（１）

教育分野（１）

更生保護分野（１）



クライアントの行動変容を確認

707



ありがとうございました



# 参考文献

- ・齊藤万比古 2010 ひきこもりの評価・支援に関するガイドライン 厚生労働科学研究費補助金こころの健康科学研究事業「思春期のひきこもりをもたらす精神科疾患の実態把握と精神医学的治療・援助システムの構築に関する研究」（主任研究者 齊藤万比古）
- ・札幌市 2014 平成25年度札幌市発達障害者支援試行事業報告
- ・山本彩 2014 行動の問題を持ち・支援を拒否する本人への地域支援者ガイドブック
- ・札幌市 2015 平成26年度札幌市発達障害者支援試行事業報告
- ・スミス, J. E. & メイヤーズ, R. J. 境泉洋・原井宏明・杉山雅彦（監訳） 2012 CRAFT依存症患者への治療動機づけ一家族と治療者のためのプログラムとマニュアルー金剛出版（Smith, J. E. & Meyers, R. J. 2004 *Motivating substance abusers to enter treatment: Working with families*. New York: a Guilford Press）
- ・副田あけみ 2014 科学研究費助成事業 研究成果報告書 「高齢者虐待に対する協働技法の開発」（研究代表者 副田あけみ）